



— 口腔機能低下症の診療を実施している医院の事例を紹介します —

「口腔機能低下症」は、う蝕や歯の喪失など従来の器質的な障害とは異なり、いくつかの口腔機能の低下による複合要因によって現れる病態。7つの下位症状のうち3項目以上該当する場合に「口腔機能低下症」と診断されます。詳細は日本歯科医学会が発信の「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」をご参照ください。

▶血液検査のように定期的に口腔機能検査を実施 メンテナンスに組み込む必要性

当院では、定期的な管理を長年にわたって実施してこられた方に、「お口の機能を調べてみましょう」と説明することで、これまですべての方に検査を行うことができています。口腔機能検査はコミュニケーションツールとしても有効であり、口腔機能を数値化することで、今後は食事指導に関しても、他科と情報共有しやすくなると思っています。口腔機能訓練に関しては、生活を共にされているご家族、病院・施設のスタッフなどの協力があれば実施していただけますが、周囲のサポートがないと困難な場合が多いのが現状です。しかし、定期的にメンテナンスに通院されている方々の場合、元々健康志向が高く、各種の訓練メニューにも積極的に取り組み、効果が発揮されやすいので、積極的に声がけしていただければと思います。



Point! 患者さんの主観だけではなく、口腔機能を数値化し、比較的若い頃から定期的に検査することが重要

Point! 患者さんは自分の歯で食べ続け、健康のためにメンテナンスを継続しているので、「食べる力の検査」と表現するとわかりやすい



患者さんへの検査同意の説明



またの歯科口腔外科クリニック

(長崎県大村市)

俣野 正仁 先生

歯科臨床において、口腔機能の「数値化」や「見える化」がやっと本格的に行えるようになったと感じています。当院では、臼歯部の咬合が得られないケースの補綴診療において、以前からグルコセンサーやモーションビジュレータなどの検査機器を用いていましたので、口腔機能の各種検査においてもスタッフの理解も得られやすく、比較的スムーズに導入することが出来ました。いつまでもしっかり口から食べるためにも、若い頃から口腔機能検査をすることは大切です。

症例1 長期にわたり定期的に義歯の咬合調整をし、噛める口づくりを継続、検査訓練にも積極的に取り組んだ症例



患者: 81歳 女性

2006年11月よりメンテナンス

1年前から「口腔乾燥が著明になりヒリヒリしたり、飲み込みにくくなった」ということから、口腔機能検査を実施。

1日3回の唾液腺マッサージとよく噛んで食べるために「箸休め(箸をおくこと)」を指導した。義歯は定期的に預かって咬合調整を行いよく噛めるように心掛けている。約1年6か月で正常値まで改善した。



(上顎総義歯)

	初回	6か月後	18か月後
口腔衛生状態(%)	22.2	66.7	44.4
口腔乾燥	22.3	27.3	29.5
咬合力(残存歯数、本)	10	10	10
舌口唇運動機能(回/秒)	/pa/ 4.8	7.2	7.0
	/ta/ 5.4	6.8	7.0
	/ka/ 5.4	5.8	6.6
舌圧(kPa)	11.7	30.0	36.0
咀嚼機能(咀嚼能力検査、mg/dL)	198	189	186
嚥下機能(嚥下式嚥下質問紙、Aの項目数)	0	0	0



メンテナンスに長期間通っておられる方が多くいらっしゃいます。これまではクリーニングを中心に行っていましたが、いつまでも「食べられる口づくり」を目指して検査・訓練に積極的に取り組みたいと思います。(歯科衛生士 作田房子 さん)

症例2 う蝕・歯周病は問題ないが、社会的な交流がなくなり機能低下があった症例



患者: 82歳 女性

2001年7月よりメンテナンス

「食事にムセがある」との主訴から、口腔機能検査を実施。

日中はあまり誰とも話さず、電話でたまに友達としゃべる程度、歌もそれほど好きではない、という状況であった。ペコぱんだMS、あいうべ体操、最大開口維持(10秒)を食後に行うように指導。口唇機能、舌圧ともに改善した。



(27歯残存)

	初回	6か月後	12か月後
口腔衛生状態(%)	22.2	27.8	22.2
口腔乾燥	27.0	29.0	31.7
咬合力(残存歯数、本)	27	27	27
舌口唇運動機能(回/秒)	/pa/ 4.8	5.2	6.0
	/ta/ 4.6	4.9	5.8
	/ka/ 2.4	5.2	5.2
舌圧(kPa)	20.6	27.7	29.2
咀嚼機能(咀嚼能力検査、mg/dL)	129	130	133
嚥下機能(嚥下式嚥下質問紙、Aの項目数)	0	0	0



今まであまり意識していなかった口腔機能を検査することで、接し方が変わったと感じています。「今日はお口が潤ってますね」などコミュニケーションツールとしても有効だと思います。(歯科衛生士 志村かおる さん)

※2022年9月現在の情報です。

